

# 国際線定期便就航25周年の節目を飛躍の年に

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第3四半期(累計)の業績は、堅調な航空需要に支えられ、世界的な景気後退の影響を受けた前年同期と比較し、大幅な増収増益となりました。しかしながら、長引く景気の不透明感や原油価格の高騰、為替の変動等もあり、依然として予断は禁物で、今後も環境変化に強い事業構造への変革に、スピード感を持って取り組んでいく所存です。

さて、この3月3日に当社は、国際線定期便就航25周年を迎えました。1986年の成田－グアム線就航以来「ANAらしいサービスとは何か」を追求し、試行錯誤を重ねながら国際線事業の展開を続け、3月には28都市60路線、週888便を運航するまでに事業規模を拡大してきました。創業以来の夢であった国際線定期便の就航に心を躍らせた当時の想いは、今も私どもの大切なDNAとして受け継がれています。この節目となる2011年に、ジャカルタ線(1月)、マニラ線(2月)、さらに初の中国内陸部への路線となる成都線(6月)を開設できますことは、役職員一同にとってこの上ない喜びであり、株主

の皆様のこれまでのご愛顧とご支援に深く感謝を申し上げます。

2011年度は、ユナイテッド航空、コンチネンタル航空とのジョイントベンチャーの開始や世界で初となるボーイング787型機の就航等、私どもANAグループにとって、さらなる飛躍の年であります。これからも、「世界のお客様にお喜びいただくために何ができるか」「日本のエアラインならではのおもてなしとは何か」を追求し、世界のお客様に夢と感動を与えるエアラインに成長してまいりたいと思います。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2011年3月

代表取締役社長 伊東 信一郎